



英語で遊ぼう～横須賀ならではのイベントのご紹介

6月1日、インターナショナルキッズファミリーin Yokosukaの川名亘子さんが主催している「英語絵本の読み聞かせ」というイベントにお邪魔させていただきました。

このイベントは、川名さんが中心になって、毎月第一土曜のお昼に、横須賀中央のモアーズ8階、サンパティオ（鎌倉パスタの前の広場）で開催されています。

ネイティブによる英語の絵本の読み聞かせや手遊びを親子で楽しめるイベントです。

開始時間は13:30、子どもたちが集まってきました。

初めて会う子どもたち同士が、絵本を通じて仲良くなっていきます。

30分後、「See You!!」

みんなでハイタッチをして、再会を約束して、子どもたちが帰っていきました。



英語の絵本と言えば、市立児童図書館に、外国語の絵本・資料コーナーを2階学習室に設置されたのをご存知ですか？

子どもたちが外国語の絵本に親しむきっかけづくりの場として導入したそうです。児童図書館からのメッセージ：『かわいい絵本やすてきな本が、たくさんそろっています。世界の国々や外国の人々、文化を知るはじめての一步として、また、横須賀

市で暮らしている様々な国の子どもたちが母国のことを知る機会として、ぜひ、ご利用ください。』

館長さんが、今日ご紹介した「英語絵本の読み聞かせ」を児童図書館でも開催したいとおっしゃっていました。実現するといいですね！

ところで、このイベントをお手伝いしていたのは、「AsMama ママサポーター横須賀チーム」の方々。AsMamaは子育てを支援して欲しい人と、

支援したい人や事業者との出会いと交流の場づくりに全国で取り組んでいます。

横須賀チームは、横須賀で自身の子どもを連れながら託児保育や送迎、ママのリフレッシュ時間確保のお手伝い活動をしています。



「地域の頼り合いの輪を広げよう！」がテーマ。

私も今後、できることから、協力させていただきたいと思っています。

子育てママが、楽しく生き生きと暮らすことができる街・横須賀。

インターナショナルキッズファミリーの活動にママサポーターの活動、いろんな活動が輪となってどんどん広がっていく夢を見たイベントでした。



横浜市の待機児童0について

『横浜市の待機児童がゼロに！』というニュースは皆さんもご存じだと思います。特に“3年前のワースト1から3年で改善”ということでマスコミが大きく取り上げました。

確かに「株式会社の積極的活用」、「保育コンシエルジュの配置」、「横浜市独自の基準で認定する横浜保育室の増設」など他の自治体が参考にすべき取り組みが多くあります。

待機児童とは、保育所への入所申請がなされており入所条件を満たしているにもかかわらず、保育所に入所できない状態にある児童のこと。

しかし、厚生労働省の定義もあいまいなため、カウントの仕方が市町村によってまちまちです。

横浜市では4月1日現在で、預かり先がなくやむなく育児休暇を延長した保護者”は待機児童から外しています。またインターネットなどを利用し、在宅で職を探している人も含まれません。

横須賀市ではどちらも待機児童としてカウントしています。

4月1日現在、横須賀市の入所児童数は3805名。待機児童数は34名。私が横浜方式で計算すると、16名になります。

ちなみに平成20年度4月時点の待機児童数は61名でした。そして、ここ2~3年は、35名前後と、確実に待機児童数は減っています。

これまでと今後の横須賀市の取り組みなどについては、次回の『WE♥よこすか 壁新聞』で詳しく報告させていただきます。（写真は横須賀市役所・はぐくみ館）

